

平成28年度以降の つくたく・つくバスサービス内容の検討のスキーム



つくバスに関するサービス内容検討

平成28年度以降のサービスの方向性

- (1) つくバスの利用者数が増加傾向にあるため、原則として現行路線を継続していく。ただし、一部路線については、利便性の向上の観点から路線の見直しを検討する。
- (2) つくば市の土地利用構想であるハブアンドスポーク型都市を構築するために、地域と市内中心部及び鉄道駅への移動を支えるネットワークにする。現行のシャトル型速達性、直行性を重視して路線を見直す。
- (3) 環境配慮の視点及び持続可能な公共交通サービスとなるように市民総ぐるみの利用促進を進めていく。

■ 現行

路線数	6 路線 7 コース
路線	北部シャトル
	南部シャトル
	小田シャトル
	吉沼シャトル
	作岡シャトル
	自由ヶ丘シャトル (谷田部)
	自由ヶ丘シャトル (荃崎)



■ 平成28年度以降

路線数	7 路線
路線	北部シャトル 【現行】
	南部シャトル 【一部変更】
	小田シャトル 【一部変更】
	吉沼シャトル 【一部変更】
	作岡シャトル 【一部変更】
	自由ヶ丘シャトル (谷田部) 【新路線へ名称含め変更】
	自由ヶ丘シャトル (荃崎) 【一部変更】

具体的な検討事項

平成28年度以降のサービスの方向性

	変更のイメージ
(1) つくバスの利用者数が増加傾向にあるため、原則として現行路線を継続していく。ただし、一部路線については、利便性の向上の視点から路線の見直しを検討する。	1 利便性向上のための路線の見直し
(2) つくば市の土地利用構想であるハブアンドスポーク型都市を構築するために、地域と市内中心部及び鉄道駅への移動を支えるネットワークにする。現行のシャトル型速達性、直行性を重視して路線を見直す。	2 ハブアンドスポーク型都市を構築するための路線ネットワークの見直し
(3) 環境配慮の視点及び持続可能な公共交通サービスとなるよう市民総ぐるみの利用促進を進めていく。	3 つくバス利用促進のためのサービス充実

1 利便性向上のための路線の見直し

- (1) 現行のシャトル型を基本とするが、速達性の向上のために一部路線を見直す。
- ・ 吉沼シャトル及び作岡シャトルの路線の入れ替え
 - 研究学園3丁目、学園の森2丁目（作岡シャトルへ）
 - 研究学園西、東光台5丁目、東光台体育館、東光台3丁目、ゆかりの森（吉沼シャトルへ）
 - ・ 自由ヶ丘シャトル(荃崎)及び南部シャトルの速達性の向上
 - 利用頻度の低い停留所の見直し及び荃崎窓口センターにおける交通結節機能を強化する。
 - ・ 閉庁時間帯におけるつくば市役所停留所の取扱いの検討
- (2) 北部シャトル運行形態の変更については、継続して検討を進める。

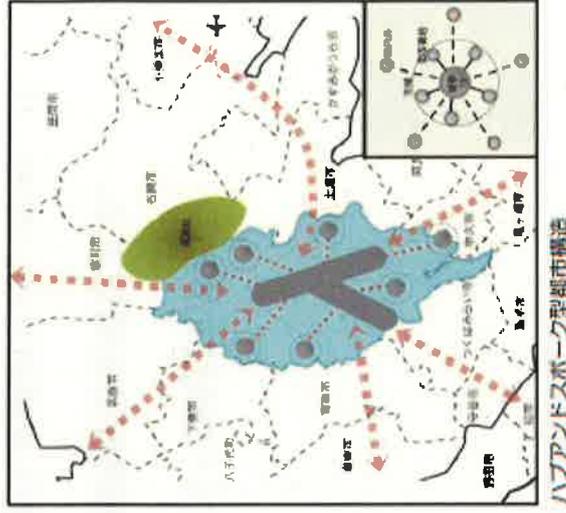
2 ハブアンドスポーク型都市を構築するための路線ネットワークの見直し

(1) 地域の生活圏と中心地区及び鉄道駅を接続する。地域の生活圏の拠点における交通結節機能を強化するために、交通サービスを集積を検討する。特に、筑波地区、大穂地区、荳崎地区における交通結節機能を強化するために、バスの集積及び乗り換え等のサービスの充実を検討する。

■ 想定される地域の生活圏×路線×TX駅

※地域の生活圏をどのように定義するか、「立地適正化計画」，「都市計画マスタープラン」等との整合性をはかりながら検討する。

地域の生活圏	路線	ハブ
北条	北部シャトル 小田シャトル	つくば駅
筑穂・花畑 (★)	北部シャトル 作岡シャトル	つくば駅 研究学園駅
吉沼	吉沼シャトル	研究学園駅
上郷	吉沼シャトル	研究学園駅，つくば駅
桜	小田シャトル	つくば駅
谷田部	自由ヶ丘シャトル (谷田部)	研究学園駅 万博記念公園駅 みどりの駅
荳崎	南部シャトル 自由ヶ丘シャトル(荳崎)	つくば駅 みどりの駅



(2) 新規開発地区及び交通需要への対応の検討
新規開発地区及びある一定程度利用二一ズが発生している地域において、交通ネットワーク形成の視点から、将来的な路線の構築を検討する。

- 中根・金田台地区～テクノパーク桜～つくばセンター間の速達性及び利便性の向上
- かみかわ、島名地区の開発促進のための路線整備

3 つくバスの利用促進のためのサービス充実

- (1) モビリティマネジメントの導入
つくバスの利用促進を図るための情報発信の充実
- (2) 定期券制度における内容拡充
安定的な利用者獲得のために、路線バス同等の定期券の発行について検討をする。
- (3) ICカード(PASMO等)の導入
TXとのシームレスな乗り継ぎを促進することで、つくバスの利用促進を検討する。
- (4) バスロケーションシステムの導入
つくバスの利便性向上のために、バスロケーションシステムの導入を検討する。なお、バスロケーションシステムを導入することで、バスの運行管理(位置の確認等)の円滑化につなげる。

つくたくに関するサービス内容の検討

平成28年度以降のサービスの方向性

- (1) つくたくは、高齢者を中心とする市民の移動手段として定着している状況にある。地区内（生活圏）の日常的な移動手段として利用されているため、日常的なサービスとして継続していく。
- (2) つくたくの需要量に対し、供給量が一部不足傾向にある。すべての利用者が利用できるようにするため、効率的な運行及びサービス提供内容について検討し、供給量の拡大を目指す。
- (3) サービスの充実を検討するために、財政負担軽減のための取組についての検討が必要である。
- (4) つくたくの利便性向上のために運行エリアの拡大について検討をする。ただし、サービスの充実と連動して、事業の持続可能性を高めるための運賃体系の在り方について検討をする。

平成28年度以降のサービスの方向性	変更のイメージ
(1) つくたくは、高齢者を中心とする市民の移動手段として定着している状況にある。地区内（生活圏）の日常的な移動手段として利用されているため、日常的なサービスとして継続していく。	高齢者等のニーズに対応できるサービス内容と供給量の確保
(2) つくたくの需要量に対し、供給量が一部不足傾向にある。すべての利用希望者が利用できるようにするため、効率的な運行及びサービス提供内容について検討し、供給量の拡大を目指す。	事業全体に要する経費の削減及び1運行あたりの経費削減
(3) サービスの充実を検討するために、財政負担軽減のための取組についての検討が必要である。	つくたく全体の利便性向上
(4) つくたくの利便性向上のために運行エリアの拡大について検討をする。ただし、サービスの充実と連動して、事業の持続可能性を高めるための運賃体系の在り方について検討をする。	

1 高齢者等のニーズに対応できるサービス内容と供給量の確保

- (1) 巡回つくたく (つくたくファイダー系) 運行の検討及び実証実験
 日常的な利用が多いポイントにおいて、大型タクシーを運行することにより、多くの利用者を乗車させることができ、効率的な運行につながる。



利用者の多い乗降場所に利用者をまとめて送迎していく。

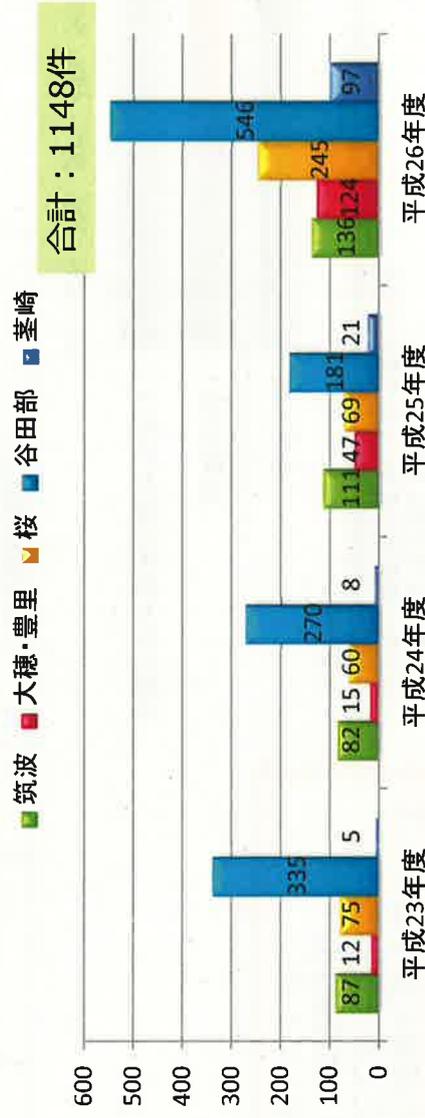
■平成25年度つくたく乗降場所利用状況

番号	乗降場所名	分類	地区	利用者数
1	B35 筑波記念病院	医療機関	大穂・豊里地区	5,212
2	D69 筑波大学病院前	医療機関	桜地区	3,453
3	E107-1 筑波学園病院	医療機関	谷田部地区	3,420
4	D67 つくばセンター	駅	桜地区	2,614
5	D71 筑波メデイカルセンター前	医療機関	桜地区	2,442
6	B14 大穂窓口センター	公共施設	大穂・豊里地区	2,409
7	D33 クレオ前	商業施設	桜地区	2,178
8	E4 アッセ入口	商業施設	谷田部地区	1,583
9	E6 イーアスつくば	商業施設	谷田部地区	1,341
10	A85-1北条 (広瀬医院)	クリニック	筑波地区	1,258
	合計			25,910

(2) 運行台数の充実

予約お断り数の多いエリアを解消するために、つくたくを2台増加させる。現在、19台で運行をしているが、21台体制に拡充していく。

■ 予約お断り件数の推移



2 事業全体に要する経費の削減及び1運行あたりの経費削減

(1) 1時間複数便の運行

1運行あたりの経費削減を図るために、1時間複数便の運行を実施し、経営上効率性を上げていく。

(2) 予約センターの機能強化

効率的な運行を推進するために、予約センターの機能強化を図る。また、正確かつ効率的な配車を実施するために、つくたく予約・配車システムをリニューアルする。

3 つくたく全体の利便性の向上

(1) 運行エリアの見直し

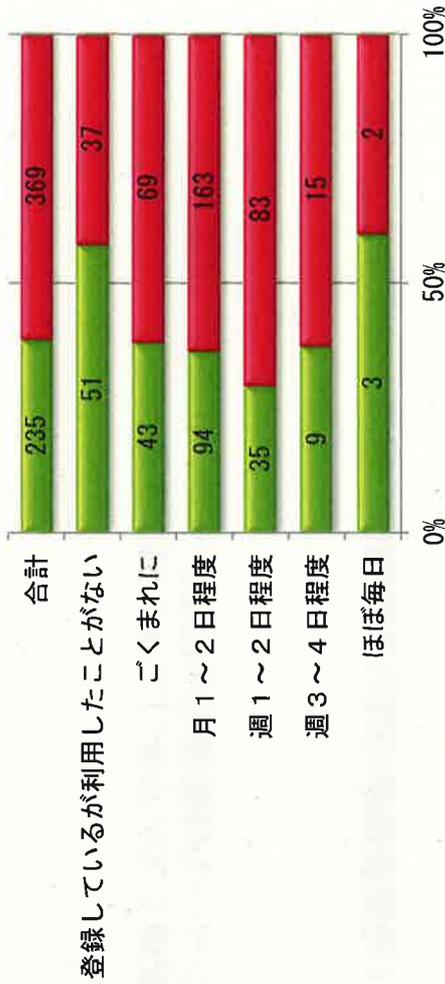
- ・市民の利便性向上を図るために、運行エリア（5エリア）の見直しをする。
- ・運行エリアの見直しに当たっては、運賃体系の見直しについても合わせて検討する。

- エリア拡大に対するニーズ
 - 利用者の約6割程度が「運行エリア以外に行きたい場所がある」と回答をしている。
 - 利用頻度が高い人ほど、運行エリア外への移動ニーズが高い傾向にある。つくたくの利便性を認識しているため、さらなる移動ニーズが発生していると考えられる。

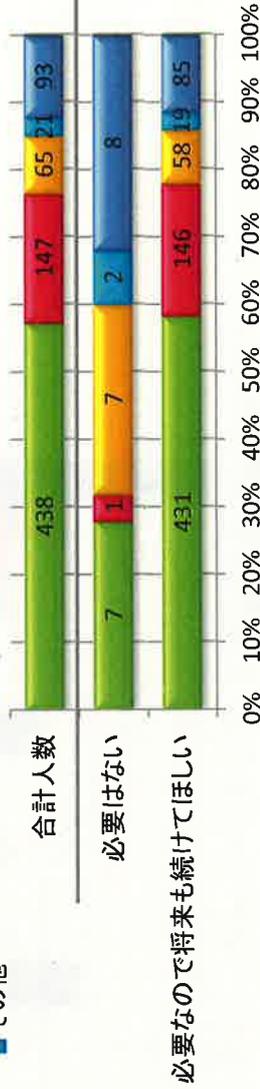
	運行エリア以外に行きたい場所はない	運行エリア以外に行きたい場所がある	合計
ほぼ毎日	3	2	5
週3～4日程度	9	15	24
週1～2日程度	35	83	118
月1～2日程度	94	163	257
ごくまれに	43	69	112
登録しているが利用したことがない	51	37	88
合計	235	369	604

- つくたくの今後の必要性と運賃に関するニーズ
 - つくたくを今後も必要だと考えている人のうち、53.9%が「運賃値上げは致し方ない」と回答をしている。

- 運行エリア以外に行きたい場所はない
- 運行エリア以外に利用して行きたい場所がある



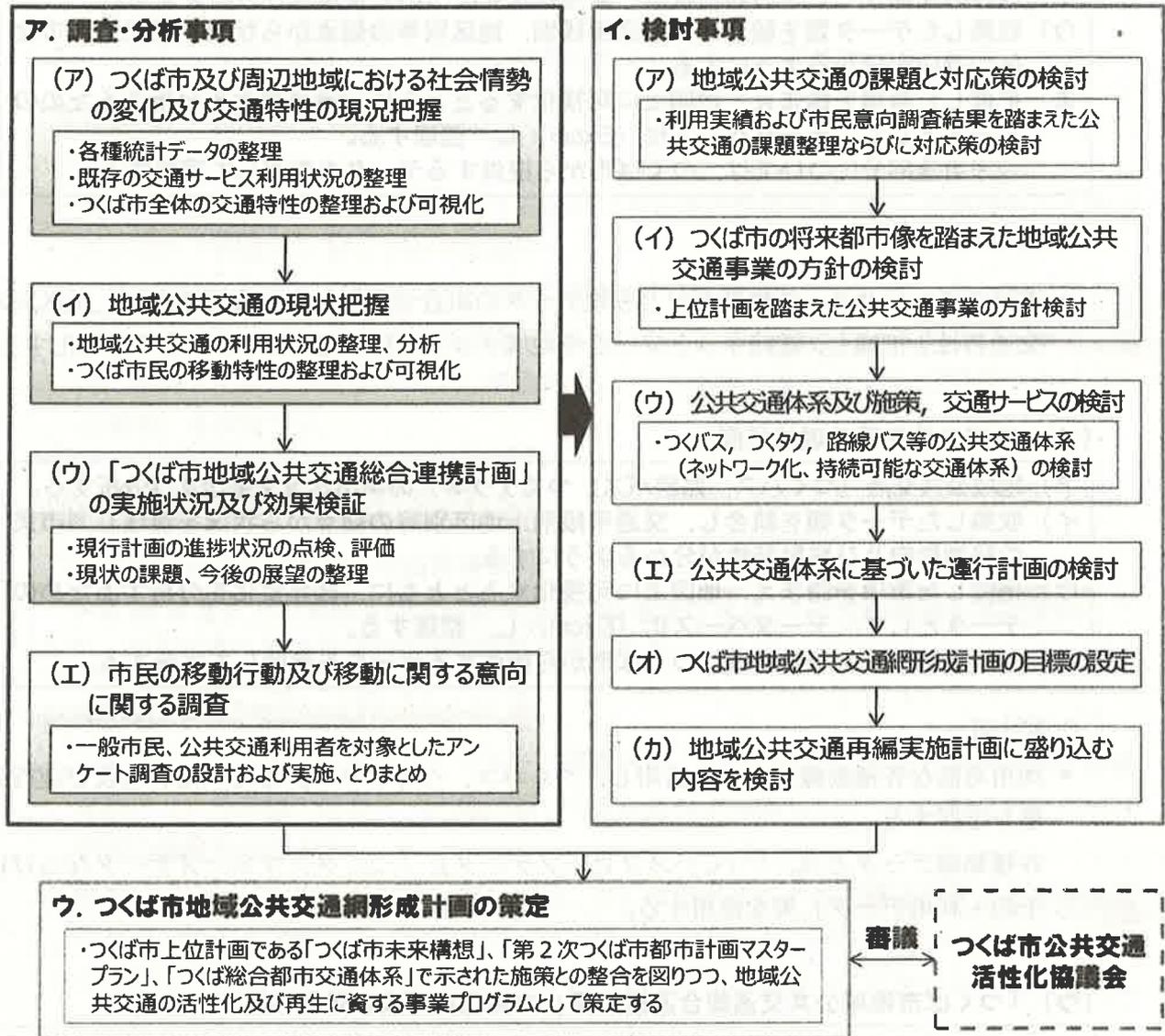
- 運賃値上げは致し方ない
- 市からの負担を増やした中で運行すべき
- 現在の運賃を維持し、かつ市の負担を増やさないためには、運行のサービスを変更してもかまわない
- その他



	運賃値上げは致し方ない	市からの負担を増やした中で運行すべき	現在の運賃を維持し、かつ市の負担を増やさないためには、運行のサービスを変更してもかまわない	その他	わからない	合計
必要なので将来も続けてほしい	431	146	58	19	85	739
必要はない	7	1	7	2	8	25
合計人数	438	147	65	21	93	764
合計割合	53.9%	18.1%	8.0%	2.6%	11.4%	94.0%

27 つくば市地域公共交通網形成計画策定の手順と検討事項

1 業務フロー



- 検討に際し、「つくば市未来構想」に掲げられたハブアンドスポーク型都市構造の構築を支援するため、市内の公共交通網の幹線として、市内各地区の拠点とTX各駅を結び、直行性・速達性を確保する「つくバス」の運行の充実を図るなどの観点を考慮する。

(ウ) 公共交通体系及び施策、交通サービスの検討

つくバス、つくタク、路線バス等の公共交通体系を検討する。特に、公共交通のネットワーク化及び持続可能な公共交通体系の構築の検討に重点をおく

- ア) つくバスについては、交通拠点への集積、市民の移動行動及び意向から、路線及びダイヤについて方針を検討する。また、市民の利便性向上の視点から施策、サービス内容の充実も検討する。
- イ) つくタクについては、市民の移動行動及び意向から、サービスに関するコンセプト及びサービス供給量について検討をする。また、適切な利用運賃、利用時間、サービス内容について検討をする。
- ウ) 路線バスについては、市民の移動行動及び意向から、つくバスとの役割分担及び路線を含む公共交通ネットワークについて検討する。交通拠点への集積、市民の利便性向上の視点から検討する。
- エ) ア) からウ) の検討事項を踏まえ、経費面及び財政面からの持続可能性について試算、検討をする。

<作業計画>

- 地域公共交通事業の方針を踏まえ、つくバス、つくタク等のつくば市内の公共交通体系に関して、公共交通のネットワーク化及び持続可能な公共交通体系の構築を重点において検討する。
- 検討に際しては、①市民や利用者の利便性、ならびに②市の財政的負担、の観点で、公共交通体系を比較評価する。
- また、PT調査や市民アンケート調査から居住者の行動圏域（公共交通利用圏域）を把握した上で、公共交通のアクセシビリティマップと重ね合わせ、ギャップのある箇所（公共交通は便利であるが、実際にはあまり利用がないエリア等）の交通サービスの見直しを検討する等が考えられる。

(エ) 公共交通体系に基づいた運行計画の検討

イ. 検討事項（ア）から（イ）に基づいて、各サービスの運行計画を整理する。

<作業計画>

- 上記（ア）～（イ）の検討結果に基づき、各サービスの運行計画を整理する。

(オ) つくば市地域公共交通網形成計画の目標の設定

つくば市地域公共交通網形成計画検討案及び現行計画の効果検証結果を踏まえ、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の趣旨及び方向性を考慮して、新計画の施策及びサービス内容について検討する。

<作業計画>

- 目標設定に際しては、連携計画において設定された事業進捗状況に関する評価指標を一部踏襲しつつ、上位・関連計画で示される都市構造、交通体系を踏まえて、具体的な数値目標を設定する。
- 数値目標の設定にあたっては、「地域公共交通網形成計画作成のための手引き」を参考にし、つくば市が目指す方向性を提示・評価可能なものとし、継続的なデータ収集の可能性も考慮する。

(カ) 地域公共交通再編実施計画に盛り込む内容を検討

上記の検討結果を踏まえ、公共交通ネットワーク構築の視点から、つくバス、つくタク、路線バスを網羅し、再編実施計画に盛り込むべき事項について整理し、方向性を作成する。

<作業計画>

- 上記の検討内容及び公共交通活性化協議会での協議内容を踏まえて、地域公共交通再編実施計画に盛り込む内容を検討する。

ウ. つくば市地域公共交通網形成計画の策定

「ア調査・分析事項」及び「イ検討事項」を踏まえ、「つくば市地域公共交通網形成計画」の策定をする。

<作業計画>

- 上記「ア.」及び「イ.」を踏まえた上で、公共交通活性化協議会での協議を経て、「つくば市地域公共交通網形成計画」を策定する。

【目次構成案】

1. 上位・関連計画
2. つくば市及び周辺地域の社会経済特性と交通特性
3. つくば市の地域公共交通の現状
4. つくば市の地域公共交通の課題
5. つくば市地域公共交通網形成計画
 - 5-1. 持続可能な地域公共交通網の形成に関する基本的な方針
(ハブアンドスポーク型都市構造を下支えする公共交通ネットワークの構築)
 - 5-2. 計画の区域
 - 5-3. 計画の目標
 - 5-4. 目標を達成するために行う事業及び事業主体
 - 5-5. 地域公共交通網形成計画の達成状況の評価に関する事項

3 業務工程

工期（自）平成27年7月18日～（至）平成28年3月18日

項目	月日	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ア. 調査・分析事項											
(ア) つくば市及び周辺地域における社会情勢の変化及び交通特性の現況把握		■									
(イ) 地域公共交通の現況把握		■	■								
(ウ) 「つくば市地域公共交通総合連携計画」の実施状況及び効果検証		■	■								
(エ) 市民の移動行動及び移動に関する意向に関する調査				■	■	■					
イ. 検討事項											
(ア) 地域公共交通の課題と対応策の検討			■	■							
(イ) つくば市の将来都市像を踏まえた地域公共交通事業の方針の検討			■	■							
(ウ) 公共交通体系及び施策、交通サービスの検討					■	■	■				
(エ) 公共交通体系に基づいた運行計画の検討						■	■				
(オ) つくば市地域公共交通網形成計画の目標の設定							■	■			
(カ) 地域公共交通再編実施計画に盛り込む内容を検討								■	■		
ウ. つくば市地域公共交通網形成計画の策定											
		骨子案作成	■	■	■	■	■	■	■	■	
			案作成	■	■	■	■	■	■	■	
							計画案作成	■	■	■	
									計画策定	■	
報告書作成										■	
打合せ(4回想定)		○		○			○			○	

市民の移動行動及び交通政策に関する意向に関する調査実施方針

1 実施目的

本調査は、「つくバス」「つくタク」の運行を中心として進めているつくば市の公共交通施策及びその取組成果等を把握するとともに、4年間の利用実績の分析結果等とあわせて、運行方針及び見直し案の検討に資するデータ収集を目的として実施するものである。

2 調査体系

平成 27 年度は、市民の移動行動及び交通政策に対する意向（満足度及び評価等も含む）を把握するためのアンケート調査を実施する。また、連携計画に位置づけられた目標達成状況を確認する観点から、平成 23 年度以降実施している調査体系を一部踏襲する。

本調査の体系は、無作為抽出による一般市民を対象とした調査、路線バス・つくバスの利用者を対象とした調査、つくタクの利用者を対象とした調査、つくば市内の施設来訪者を対象とした調査とし、各調査手法は、調査対象者に合わせてそれぞれ適切な方法で実施する。

以上のアンケート調査結果に基づき、市内における「活動の場」（都市機能の分布）と「居住地」（人口分布）、との関係を把握した上で、それらを結ぶ「交通サービス」を市全体として捉えるための分析を実施する。

表 1 市民の移動行動及び交通政策に関する意向に関する調査の体系

調査名（仮称）	調査のねらい	調査手法
①市民の移動行動及び交通政策への意向に関する調査（一般市民対象調査）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の移動行動（特定日ではなく、1週間程度の生活行動を把握） ・ 「つくバス」「つくタク」の認知状況及び利用状況 ・ 市の交通政策への意識、満足度 等 	無作為抽出による郵送配布・郵送回収
②路線バス・つくバス利用者を対象とした調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バス、つくバスの利用状況 ・ 路線バス、つくバスのサービスに対する満足度及び改善要望 等 	WEB アンケート（車内への調査票設置・郵送回収併用）
③つくタク利用者を対象とした調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の移動行動（特定日ではなく、1週間程度の生活行動を把握） ・ つくタクの利用状況 ・ つくタクのサービスに対する満足度及び改善要望 ・ 市の交通政策への意識、満足度 等 	つくタク自宅登録者（抽出）への郵送配布・郵送回収
④病院等市内施設利用者を対象とした調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の移動行動（特定日ではなく、1週間程度の生活行動を把握） ・ 市の交通政策への意識、満足度 等 	市内の病院・市庁舎来訪者への聞き取り調査

3 各調査の実施方針

(1) 市民の移動行動及び交通政策への意向に関する調査（一般市民対象調査）

- 調査手法
 - 郵送配布・郵送回収
 - 15～89歳の市内居住者を対象とし、性別年齢階層別／中学校区別に層化無作為抽出
- 配布・回収票数の想定
 - 市域全体で2,400票を配布し、約600票の回収（回収率25%）を見込む
- 調査実施時期
 - 平成27年度9月上旬に配布～2週間程度での回収を想定



図1 つくば市中学校区

(2) 路線バス・つくバス利用者を対象とした調査

● 調査手法

① Web アンケート（スマートフォンでの回答を想定）

- 路線バス・つくバス車内の分かりやすい場所に調査協力ポスターを掲示し、QRコードによる Web アンケートへ誘導
- その場でスマートフォンによる回答を想定し、5分程度で回答できるよう工夫
- 調査への謝礼により、一定量の回収数を確保

② バス車内への調査票の設置

- スマートフォン（インターネット）での回答ができない方を対象に、バス車内及びつくば学園サービスセンター（つくば駅バスターミナル内）に設置する紙の調査票による郵送回収も合わせて実施

● 配布・回収票数の想定

- 調査期間中で約 600 票の回収（昨年度調査と同程度の回答数）を見込む

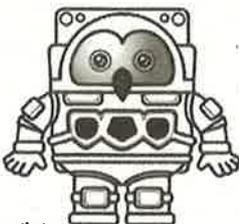
● 調査実施時期

- 平成 27 年度 9 月上旬～1 か月間程度

バス利用者アンケート調査のお願い フクッ!

調査期間
平成27年 9月xx日 × ~ xx月xx日 ×

対象：路線バス、つくバスをご利用の方



期間中、調査にご協力いただいた方のうち、
抽選で100名様に
Amazonギフト券（300円分）
をプレゼントする フクッ!
ぜひご協力ください フクッ!

アンケート調査は、以下のQRコードからアクセスする フクッ!
スマートフォンで5分程度で回答できる フクッ!



インターネットがご利用できない方は、バス車内に設置した
アンケート調査用紙でもご回答いただける フクッ!

調査に關するお問合せ（調査実施者）：一般財団法人計量統計研究所 TEL：03-3768-xxxx
調査実施主体：つくば市企画部交通政策課 TEL：029-883-1111（内線3320）

図2 バス車内に掲示する Web アンケート協力依頼ポスターイメージ

(3) つくタク利用者を対象とした調査

- 調査手法
 - 郵送配布・郵送回収
 - つくタクの自宅登録者を対象として実施
- 配布・回収票数の想定
 - 市域全体で800票を配布し、約320票の回収（回収率40%）を見込む
- 調査実施時期
 - 平成27年度9月上旬に配布～2週間程度での回収を想定

(4) 病院等市内施設利用者を対象とした調査

- 調査手法
 - つくば市内の病院等の施設来訪者を対象として、調査員による聞き取り（ヒアリング）調査を実施
 - 対象施設は、筑波メディカルセンター病院、筑波記念病院、筑波学園病院、いちはら病院、つくば相愛病院、筑波大学附属病院、つくば市役所等の施設より、3～4箇所程度選定（協議）のうえ実施
- 配布・回収票数の想定
 - 全体で50～100名程度の回答を見込む
- 調査実施時期
 - 平成27年度9月中旬の実施を想定

4 調査結果を活用した分析方針

市民の移動行動及び交通政策への意向に関する調査結果等を活用し、以下の方針（着眼点）に基づき分析、整理する。

(1) つくば市内における都市活動の把握

- 一般市民アンケート調査結果に基づき、日常的な移動行動を把握する（特定の1日だけに着目するのではなく、1週間～1か月程度の期間の生活パターンと訪問先を把握）
例）オフィスワーカーは、週5日同様の通勤・帰宅、週末は家族と外出
例）主婦層は、週に1日子供の送迎、週に3日は近くのスーパーで買物
例）高齢者は、週に2日通院、週1日友人宅訪問、その他の日は外出なし 等
- 日常的な移動行動は、年齢階層や世帯構成、自由に使える自動車の有無によって傾向が異なると考えられることから、これらの個人属性に着眼して分類、整理
- 日常的な移動行動（つくば市内の都市活動）に関する整理結果をもとに、「居住地」（人口の分布）と市内における「活動の場」（都市機能の分布）との関係を把握した上で、それらを結ぶ「交通サービス」の市全体としてのあり方を検討

⇒上記の整理結果と地域公共交通の利用状況（顕在化した需要）の分析結果と照らし合わせ、公共交通の潜在的な需要（転換可能な需要）を把握、整理

(2) 路線バス、つくバス、つくタクの利用特性と満足度の把握

- 路線バス、つくバス、つくタクの利用者（顕在化している需要）の利用特性を把握するとともに、各自が利用しているサービスに対する満足度または改善要望を把握、整理

(3) つくば市の公共交通政策に対する意識、評価の把握

- 公共交通を利用するための条件や、つくば市の公共交通サービス全般に対する意識（認識）と評価、要望等を把握、整理

⇒上記の整理結果と地域公共交通のサービス状況（主要拠点までの所要時間や運行頻度等）の分析結果と照らし合わせ、市民のニーズとサービス状況との整合（または乖離）を確認

(4) 5年間の地域公共交通総合連携計画の総括、評価

- この5年間における公共交通利用頻度の変化や利便性向上の実感、生活環境の変化（例：自動車を手放したり、運転免許を返納したりするなどの変化）を把握、整理

【参考】各種データを活用した地域公共交通の現状把握イメージ

- つくば市が保有，取得する各種動線データ（つくバスプローブデータ，つくタクプローブデータならびに予約・利用データ等）を活用し，つくバス，つくタクの詳細な利用特性及び運行実態を把握

(分析例①) つくバス及びつくタク利用実績に基づき，地域メッシュごとの乗降者数を可視化

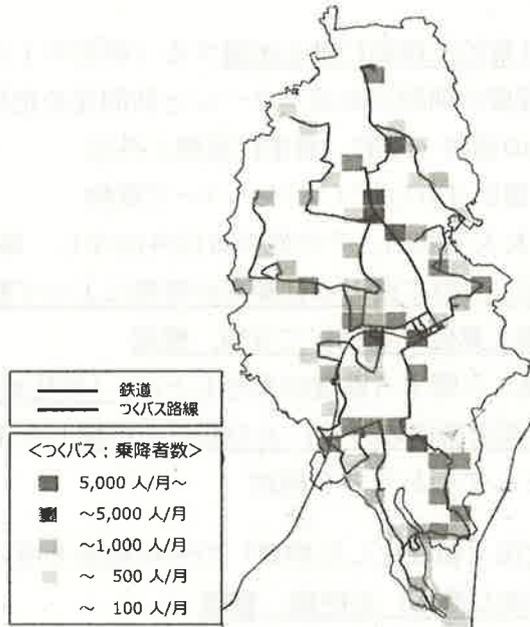


図 1km メッシュ別つくバス乗降者数

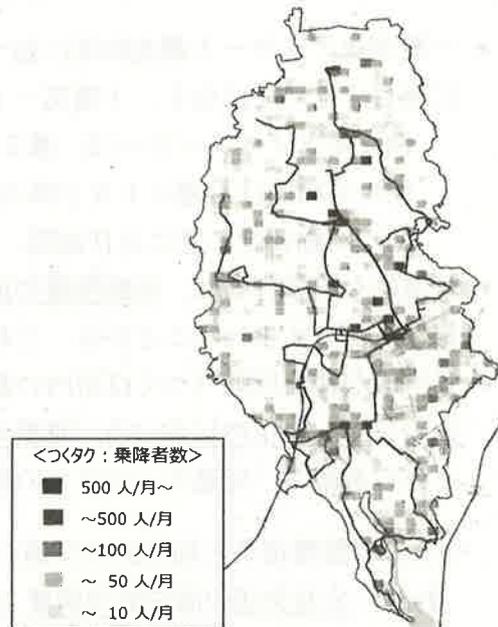


図 500m メッシュ別つくタク乗降者数

(分析例②) つくタク利用実績に基づき，メッシュ間流動量・道路区間別輸送人員を可視化

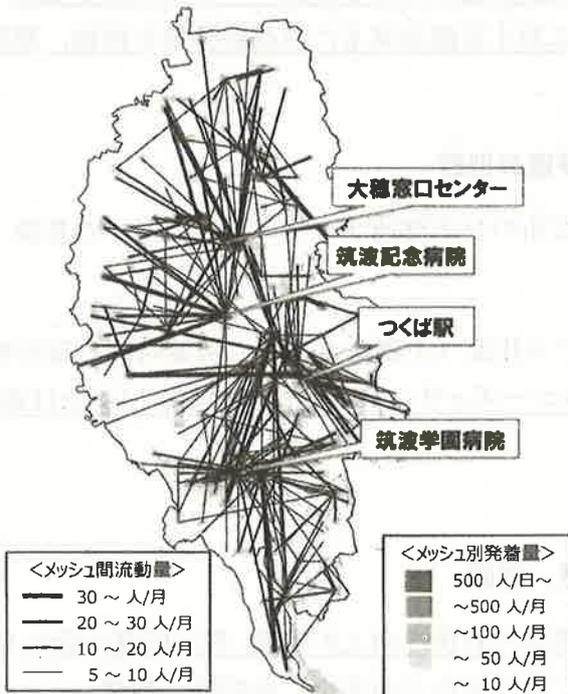


図 つくタク利用のメッシュ間流動量

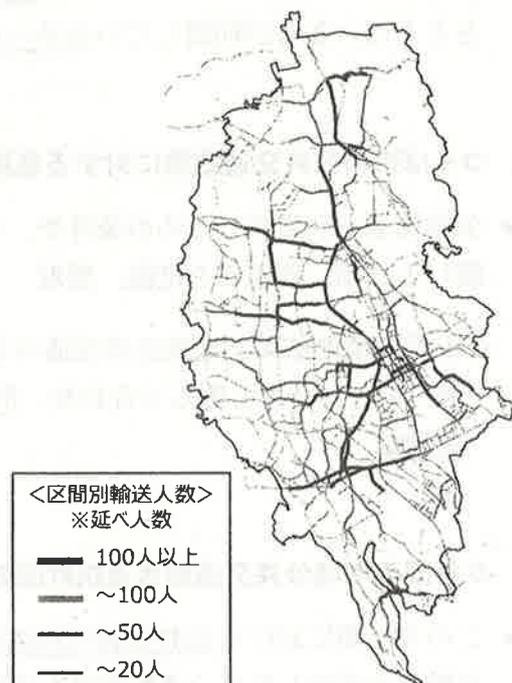


図 道路区間別つくタク輸送人員

平成27年8月1日付 吉沼シャトルのダイヤ改正について

平成27年8月1日(土)から、利便性向上を図り、つくバス「吉沼シャトル」の
下り 最終46便 の時刻表を変更いたしました。

1) 対象路線・便

つくバス 吉沼シャトル 下り 上郷行き 最終46便 のみ

2) 変更内容

変更前

停留所 No	Y 01	Y 02	Y 03	Y 04	Y 05	Y 06	Y 07	Y 08	Y 09	Y 10	Y 11	Y 12	Y 13	Y 14
名称	つくばセンター	春日二丁目	研究学園駅	つくば市役所	研究学園3丁目	学園の森2丁目	豊里の杜	豊里中学校	手子生	テクノパーク 豊里中央	上郷	田倉	吉沼駐在所前	吉沼
46便	22:00	22:03	22:10	22:13	22:16	22:18	22:27	22:31	22:32	—	22:38	—	—	—



変更後

停留所 No	Y 01	Y 02	Y 03	Y 04	Y 05	Y 06	Y 07	Y 08	Y 09	Y 10	Y 11	Y 12	Y 13	Y 14
名称	つくばセンター	春日二丁目	研究学園駅	つくば市役所	研究学園3丁目	学園の森2丁目	豊里の杜	豊里中学校	手子生	テクノパーク 豊里中央	上郷	田倉	吉沼駐在所前	吉沼
46便	22:00	22:05	22:12	22:15	22:18	22:20	22:27	22:31	22:32	—	22:38	—	—	—

- ・春日二丁目～学園の森2丁目までの停留所の時刻を変更しております。
- ・他の便の時刻に変更はありません。

平成27年8月1日付 作岡シャトルのダイヤ改正について

平成27年8月1日(土)から、利便性向上を図り、つくバス「作岡シャトル」の
下り 4便 の時刻表を変更いたしました。

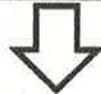
1) 対象路線・便

つくバス 作岡シャトル 下り 4便 のみ

2) 変更内容

変更前

停留所 No.	S 01	S 02	S 03	S 04	S 05	S 06	S 07	S 08	S 09	S 10	S 11	S 12	S 13	S 14	S 15	S 16
名称	研究学園駅	つくば市役所	研究学園西	東光台五丁目	東光台体育館	東光台三丁目	ゆかりの森	筑波記念病院	土木研究所	大穂窓口センター	篠崎	大砂・今鹿島入口	テクノパーク大穂	北部工業団地中央	作谷	寺具
4便	8:10	8:13	8:14	8:16	8:17	8:18	8:20	8:25	8:27	8:35	8:40	8:42	8:44	8:47	8:55	9:08



変更後

停留所 No.	S 01	S 02	S 03	S 04	S 05	S 06	S 07	S 08	S 09	S 10	S 11	S 12	S 13	S 14	S 15	S 16
名称	研究学園駅	つくば市役所	研究学園西	東光台五丁目	東光台体育館	東光台三丁目	ゆかりの森	筑波記念病院	土木研究所	大穂窓口センター	篠崎	大砂・今鹿島入口	テクノパーク大穂	北部工業団地中央	作谷	寺具
4便	8:11	8:14	8:15	8:17	8:18	8:19	8:21	8:26	8:28	8:36	8:41	8:43	8:45	8:48	8:56	9:09

・他の便の時刻に変更はありません。

茨城県地域公共交通活用外出支援事業について（案）

1 目的

公共交通による外出機会の増加を促し、地域消費を喚起しつつ公共交通の活性化を図るために、茨城県公共交通活性化会議からの補助を受けて、路線バス利用お試し乗車券及び買い物割引券を配布する公共交通利用促進キャンペーンを展開する。

2 実施主体

つくば市 ※協力：関東鉄道株式会社、つくば市商工会

3 事業概要

(1) 路線バスお試し乗車券の配布路線

①みどりの駅－桜ヶ丘団地－高見原－牛久駅

②緑が丘団地－牛久駅

(2) バスお試し乗車券等配布枚数

○バスお試し乗車券

100円×4枚を1綴りとし、上記路線の沿線世帯に区会経由で5,240綴り程度を配布する。

○買い物割引券

茎崎地区の店舗で利用できる買い物割引券（1枚500円程度）を路線バス車内で600枚（1路線300枚）配布する。

(3) 事業期間

平成27年11月1日から平成27年12月15日まで（予定）

4 助成金申請額

(1) バスお試し乗車券利用見込み

配布総数 (a)	利用見込比率 (b)	利用見込枚数 (a×b=c)	お試し乗車券価格 (d)	助成申請額 (c×d)
5,240	10%	524	400	209,600

①みどりの駅－桜ヶ丘団地－高見原－牛久駅 2,320枚

②緑が丘団地－牛久駅 2,920枚

(2) 買い物割引券

配布総数 (a)	利用見込比率 (b)	利用見込枚数 (a×b=c)	お試し乗車券価格 (d)	助成申請額 (c×d)
600	50%	300	500	150,000

5 効果

バスお試し乗車券を配布することで、路線バスへの興味関心が喚起され、利用促進につながる可能性がある。また、当該路線バスの利用促進が図られることで、赤字路線から脱却できる可能性もあり、バス運行対策費補助等の市負担の軽減につなげることができる。

協議報告書

1 案件名

まつりつくば 2015 開催日における「つくバス 1 日乗車券」の料金軽減について

2 結果

つくば市公共交通活性化協議会幹事会において協議（書面協議）し、その結果を踏まえ、つくば市公共交通活性化協議会（以下、活性化協議会）において協議（書面協議）し、同案件について承認される。

平成 27 年 7 月 17 日付けで、「道路運送法第 9 条第 4 項及び同法施行規則第 9 条第 2 項に掲げる協議が調っていることの証明書」を活性化協議会会長名で発出する。